



鹿児島県のアボカドに発生した害虫

鹿児島県大島支庁徳之島事務所農業普及課 **西** **菜穂子**
 鹿児島県農業開発総合センター果樹花き部 **みや** **じ** **かつ** **ひこ**
宮 **路** **克** **彦**

はじめに

アボカドは、近年、特に女性を中心に大人気の亜熱帯性果樹で、2008年に比べ2018年では輸入量が3倍に増えており（財務省貿易統計、2018）、生で食べるだけでなく、煮る、揚げる、焼くとレシピの豊富な果実である。輸入されているアボカドの品種は‘ハス’であるが、アボカドにはメキシコ系、グアテマラ系、西インド諸島系と三つの系統があり、さらに各系統の交雑種が多数ある。様々な色や形の品種が育成されており、その食味も良好である。鹿児島県では、マンゴー、パッションフルーツに続く新たな特産果樹としてアボカドやアテモヤ、ライチ等の亜熱帯果樹の試作が行われているが、その中でもアボカドは国産に対する消費者ニーズや育ててみたいという生産者の要望の高まりから、指宿市や南大隅町、瀬戸内町等でアボカドが栽培され、今後も栽培面積の拡大が予想される。鹿児島県では、主に露地で栽培されているが、施設でも栽培されている。しかし、アボカドを栽培するにあたり、これまで病害虫に関する詳細な調査が行われておらず、また2020年5月現在でアボカド登録のある農薬はないため、防除対策を講じるうえで発生種を明らかにすることが最も重要である。そこで、鹿児島県におけるアボカドに発生する害虫の実態調査を2015～19年に露地および施設圃場で行った（西ら、2019）。

本研究は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター『革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクトC067）「アボカド、パッションフルーツなど亜熱帯果樹における国産化可能性の分析と栽培技術の開発」（2016年～18年度）』の支援を受けて実施した。その成果は農研機構ホームページで公開している（農研機構果樹茶業研究部門ほか、2019）。本稿では、アボカドに発生する

害虫を中心に本事業により得られた成果と今後の課題について紹介する。

I アボカドに発生する害虫

アボカドに発生する害虫の調査は、鹿児島県農業開発総合センター旧果樹部（垂水市）、鹿児島県農業開発総合センター果樹・花き部（南さつま市）ならびに日置市、鹿児島市、指宿市、奄美市および瀬戸内町現地生産者の露地栽培、施設栽培で行った（図-1）。調査品種は主に‘ピンカートン’、‘フェルテ’、‘ベーコン’および‘メキシコラ’であった。調査で得られたサンプルは実体顕微鏡で「目」あるいは「科」まで分類した後、各分類群の専門家にサンプルあるいは写真を送付し、種の同定を依頼した。その結果、2015年4月から19年1月までの調査期間にアボカドで発生が確認された害虫種は20科26種

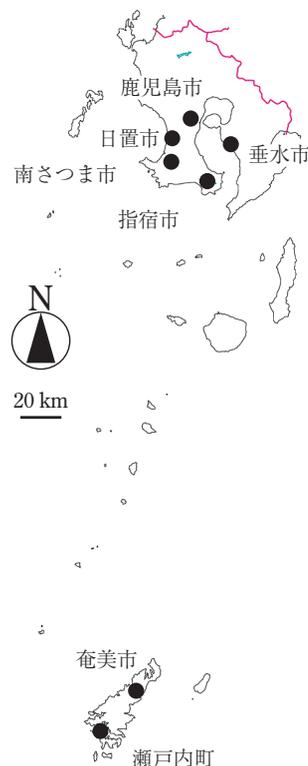


図-1 アボカドに発生した害虫の採集場所

Arthropod Pests of the Avocado Plant in Kagoshima Prefecture, Japan. By Nahoko NISHI and Katsuhiko MIYAJI

（キーワード：アボカド、チャハマキ、ミナミトゲヘリカメムシ、アテモヤコナジラミ、ヤマモモコナジラミ）